

# 男女共同参画推進懇話会委員に聞く

大分市男女共同参画推進懇話会は、平成11年に策定した「おおいた男女共同参画推進プラン」を円滑に進めるために、平成12年に設置されました。懇話会は市民及び学識経験者などから構成され、現在の委員数は20人です。

今回は懇話会会長の久保加津代さんと、新委員になられた阿部豊志さんに男女共同参画への思いを伺いました。



## ほんとうにやさしい社会を

久保加津代さん

大分大学教育福祉科学部教授  
大分県社会福祉審議会委員

大分県には三十年以上も前から男女共学の家庭科にとりくんでこられた先生方がおられます。その大分で新しい家庭科の勉強ができればと、家庭科の男女必修が決まった一九八九年に大分に来ました。中・高校の男女で学ぶ家庭科は、子どもたちの性別役割意識の解消に大きな役割を果たしています。男の子も女の子も協力しながら生き生きと実習などにとりくんでいる姿が印象的です。

大人たちの言葉から、男らしさや女らしさのイメージを描いていくのではないのでしょうか。

最近、いろいろところで、男らしさ・女らしさは大切だという議論がみられますが、私は男も女も、強さもやさしさも大切だと思っています。ほんとうに強くなければやさしくはなれないことを実感しています。

男女共同参画社会とは、男と女が協力しあって、ほんとうにやさしい社会を創っていくことですね。



## 子育て支援と意識改革を



阿部豊志さん

行政書士  
大分県県政モニター

私には6歳、4歳、2歳と3人の息子がいます。夫婦で話し合い、子どもたちには、小さいときから身の回りのことは、自分でできるようにさせています。私も家ではお風呂そうじや、洗濯物を畳んだり、家事を分担していますが、それらも子どもたちと一緒にしています。小さい時からしていると、それが「あたりまえ」という認識になってきます。

いうことなんだろうが、今は、リストラで仕事に就けず離婚し、子どもを抱えている、というケースも多くなっています。男も女も安心して働けるような制度の充実が必要です。

男女共同参画社会実現に向けて大切なことは、子育て支援と意識改革だと認識しています。年輩の方の「男はこうあるべき」「女はこうでなければ」というような意識を変えていくことは難しいと思いますが、まずは私たち世代の意識を変え、徐々に根付かせていくことが大切だと思います。

2年前、北九州から大分に戻り、大分の子どもに関わる福祉の充実が、「まだまだだ」と実感しました。病児保育の充実や保育時間の延長など、柔軟で多様な子育て支援がなければ、女性社会参画に制限を受けてしまいます。我が家は夫婦で自営ですので、子どもが病気の時などでも、どちらかが対応できますが、会社勤めだとそうはいかないのが現状でしょう。

また、父子家庭への支援は、母子家庭の支援に比べ遅れています。父親の方が経済力があるだろうと

### キーワード

#### 男女共同参画社会

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって活動のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会